

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	技術監理室
担当課	技術企画課
課長名	栗林
施策番号	
I - 2 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	(人件費備考)

事業概要						
事業名	明日の公共事業を支える人材確保・育成事業					
事業概要	建設業の若年就業者の減少により、インフラの維持管理に関する担い手不足が懸念されるなか、土木技術の魅力を発信し、公共事業への理解をより深めることで、将来にわたって公共事業を支える人材の確保・育成を図るものです。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人
	2,800 千円	千円			5,400 千円	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 【新規事業】建設業の若年就業者が減少しており、このままではインフラの維持管理を含めた地域づくりの担い手が不足するという課題があり、国を挙げて議論されています。課題解決のためには、建設業の魅力アップに向けたPR活動が不可欠です。	見直し内容	-

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 将来、北九州市の公共事業を担う子どもたち(市民、保護者を含む)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 暮らしを支える公共事業の理解をより深め、将来、北九州市の公共事業に従事する若者が増える。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 将来の北九州市の公共事業に貢献したいという関心度 公共事業の必要性を理解したうえで、それを支える建設業に対する関心などを、イベント参加者へのアンケート調査により把握します。 (最終目標と目標年度) 毎年度: 70%	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
		-	70 %	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ものづくりの魅力を伝える公共事業の現場見学会や土木技術に触れる体験講座・企画展など、本市を支える公共事業に興味を持ってもらう取組みを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 産学官の連携による、建設業の魅力アップに向けた取組みの推進 この活動は実施回数などが問題ではなく、建設業が抱える問題を産学官で共有し、将来の担い手不足という深刻な課題に対して、いかに効果的なPRを行うかについて重点を置くこととします。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
		-	-	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

		担当局	技術監理室			
		担当課	検査課			
		課長名	小西			
事業概要		施策番号				
事業名	公共工事安全対策強化事業				V - 3 - (1) - ①	
事業概要	市が実施する公共工事の安全対策強化のため、安全指導を専門とする(仮称)安全パトロール隊を設置し、事故の抑制を図る。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
		3,000 千円	千円	平成26年度新規事業	2,900 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人
(人件費備考) 担当課のみ、再任用のパトロール隊員の人件費は含まない。						

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 公共工事での事故発生件数が、H23年度から増加に転じH24年度には死亡事故も発生するなど工事の安全性が低下している。また、労働基準監督署との合同安全パトロールでの指摘件数が増加するなど、市監督員の技術力不足から十分に受注者を指導できない状況となっている。	見直し内容	-

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 公共事業の実施にあたり	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 「誰もが安心して健康に働くことができる工事現場」を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 市発注工事における事故の削減後の件数	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	過去3年(H24~22年度)の平均事故発生件数(16件)を基準として、5年間(H29年度)で事故の発生を20%以上減少させる。(厚生労働省:第12次労働災害防止計画「建設業の目標」を参考)	1 件	15 件以下		
	(最終目標と目標年度)事故発生件数を平成29年度に13件以下とする			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 安全指導を専門とする(仮称)安全パトロール隊による、安全パトロールを実施することで、不安全箇所の改善、現場従事者の人材育成を図り、事故を抑制する。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	安全パトロールの実施件数	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	安全パトロールの対象工事は、重大事故発生の恐れがある工事及び業務委託で(H24実績約1,000件)、安全パトロール隊創設初年度で、隊員の教育期間等を考慮し、約70%のパトロールを目指す。	1 件	700 件		
				%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点